

# 「義人はいない。一人もいない」

～罪人の本当の友～

ローマ3：1～29

自らの事しか考えない自己中心という罪は私たちの人生を台無しにしていきます。当時ユダヤ人たちはイエスを十字架にかけました。殺してはならないという法律がありました。自らのルールを押し進める為にいくらかでもその律法を無視しました。ルールを守る為に。そのルールは何のためにあったのでしょうか。それは神様の為であり、その神様の愛する人のためにあったルールです。人が幸せに生きるため、人が愛されて生きるため、人が自らのアイデンティティーを理解していきるためにルールがありました。しかし、そのルールはある一部の人の立場を守る為に変わっていったのです。ルールはして良い事を定めたのではなく神様は絶対にしてはならないというルールだけを定め、それ以外は人間の良心にまかせました。そのルールの中心とはただ、愛であり全てのものを神が愛するごとくに自らを愛するように隣人を愛せというこの2つのルールに立ち、十の戒めが人間に与えられました。しかし人々は、この一番大切なルールを守らなくてもその形を守る事で自分が正しいと思うようになったのです。いつも忘れてはならない事、それは私たちが罪人であるという事です。当時のユダヤ人達は自分達がルールを作っていて、そしてそのルールによって自分達の立場を守ろうとしていたが、そのルールが神様の愛からそれている事に目を向けることなく、その破った事をどう人の前で正しくするか、という事で彼らの持論のなかに自分が犯した罪を神はえきとするという概念が生まれてくるのです。自分達が犯した罪をその罪によって神様の義が計画が成されるんだと人の罪によって義が成されるんだという事が1から8節まで書いてあるのです。信仰義認：信仰によって義と認める。その背景には、まず義認は無い一人もいない。という事。我が我であるうちには義ではないが羊イエスキリストが上にあることによって初めて私達が義と認められるという事です。しかし人間は隣のひとと比較して義と認めるのです。私達クリスチャンは自らの罪に気づけなくなっています。私達が神様を愛するなら神の命を守らなければなりません。罪を犯したなら悔い改めるという事なのです。そうすれば私達の罪は赦されて神様のもとに帰れるのです。しかし私達は罪がわかっていないのです。それがわからないのです。大切なのは自分自身がその罪と戦う事なのです。健全な教会とは罪にちゃんと目が向いて赦されたという事がわかって愛し合うというきょうかいです。私達はいつもそれを忘れてあなたかもじぶんが正しい人のように振舞ってしまうのです。パスカルの定義より人は二つの種類があり一つは罪を知って義人であり、一つの種類の人は罪を知らない罪人であるといえます。またブリタニカより本当の友達の定義とはすべての友がその人から離れてその人を見捨てたときにその人のところを尋ねる人である。神様は私はあなたの友になると言っています。そしてその友である役割をあなたに譲ったのです。さて、私たちは、律法のいうことはみな、律法の下にある人々に対して言われていることを知っています。それは、全ての口がふさがれて、全世界が神のさばきに服するためです。ローマ3：19

神様が罪を示した」人の前に立つとき、私達はしゃべれなくなります。人の悪口を言っている間は自分の罪がわかっていません。私達は愛し合う為に造られたのであって、批判し合うためにつくられたものではありません。

## ①赦された罪人

### 罪に対する理解が本当の友を導く

本当の友とは自分の罪を理解した人にしか友になれないのです。友というのはその人の人生を本当に愛するという事なのです。神様の前に私達はいつも学ばなければならぬこととは、その罪を赦された者である。私達は今ここでいいと思える事がその人生の恵みなのです。私達は神様の前に自らが持っているものをきちんと整理しなければなりません。あなたが持っているものの中であなたが誰かにしたからといってあなたがしたのではありません。いつからあなたのものになったのですか。無から生み出されたちりである私達が今ここに生きている、生かされているという事は誰かの為に生きなければなりません。それを持つ事が出来たら祝福なのです。

## ②罪が神の計画をなすことはない

私達はいつも罪におびきよせられて、誘惑されて生きています。しかしその罪があなたを通してできるはずの人間関係をこわしていくのです。あなたは、ただで受けたのにあなたは隣の人を赦さないのですか。1万タラント赦されたのに百デナリを赦さないその様な人生になってしまうのです。神様は十字架にかかってあなたの贖罪を赦したのに一度でも私はあなたの為にこの何億円も立て替えてやったのだと言ったことがあるでしょうか。神様の前に立つ私達は受けたものを与えていかなければいけないのです。現れた罪ではなく秘められた罪が問題である。それに気づけない事はもっと大きな罪です。本当に自分に気づいてない罪がないか探してください。神様の前に私達が祝福される方法は罪を犯した者が赦されるという事だけだからです。もしあなた方のなかに病んでいる人がいるなら教会の長老たちを招いてあなたの罪を告白しなさい、そしてあなたの罪が赦されるならあなたの罪は赦されると書いてあるのです。罪に病が潜み、その罪に傷が潜むのです。イエスキリストを信じたときに私達は神様によって傷も癒されます。私の恵みはあなたに十分であると言われました。しかしその罪がまだ残っているとその傷は同じような傷をその罪の中に与えてきます。ですから私達は同じ様な罪に苛まれていくのです。律法は私達の言葉を失わせます。しかし神様の前に出たとき律法によって気づかされた罪は赦しを受けるのです。赦しを受けられた時に人々は平安を得ます。平安が私達の魂に幸いを与えます。幸いを得た肉体は健康になるのです。これが聖書の真理です。

## ③ただ神の恵みによる救い

神の裁きに差別はありません。そして神を信じる恵みに差別はないのです。

ローマ3：23～26

すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現すためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。それは、今の時にご自身の義を現すためであり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認めになるためなのです。

私達が今ここにいるのは、ただ神の恵みなのです。だから生きていることだけでも恵みなのです。神様が良くしてください。さした事を忘れないでください。神様はずっと待って、何度でも赦して何度でも向き合って何度でも愛してくれています。なぜ争うのかというと、自分の方が正しいと」思うからなのです。イエスキリストは十字架にかかってくれました。あなたが打たれなければならない釘を彼が背負ったのです。だから、私達は二度と人に裁きの目を向けてはいけません。神様の前にいつも祈り自分の罪がないかをかえりみなければなりません。

## まとめ

罪を知った人はその友の為に命をかけるのです。罪がわからないからその友を裁いて敵にします。自分の弱さがわからないから、その大切な人を傷つけるのです。そんな私達の中に神様が罪をもってしまった人間の心にその罪をもって愛を示したのです。私達が罪を知ることそんな罪人をも愛してくれる神様に感謝できる環境を唯一この地で本当に私達が感謝できる環境を用意し賛美できる環境を用意し私達の悪循環から道を作り変えようとしてくれました。神様は罪のなかにいる私達をその罪の呪いの力を背負う事を通してその罪を理解したものに救いをもたらします。

(要約者:小根久保 麻由美)

(2019年5月19日)